

2021 年度事業報告

I. 一般概況

1. 植物性たん白の生産、出荷・自社使用量

当協会の調査によれば、2021 年の植物性たん白の国内生産量は 50,503 トン（うち、大豆系が 44,725 トン、小麦系が 5,778 トン）で、対前年比 101.0%であった。

また、同年の植物性たん白の出荷・自社使用量は 64,512 トンで、対前年比 104.6%であった。

表－1 植物性たん白の生産、出荷・自社使用量の推移

単位：トン、%

年次	国内生産量			出荷・自社使用量		
	計	大豆たん白	小麦たん白	計	大豆たん白	小麦たん白
2017年	45,694	38,559	7,135	60,857	39,402	21,456
2018	45,328	38,682	6,646	61,752	39,910	21,841
2019	47,107	40,949	6,158	61,794	40,876	20,918
2020	49,993	44,198	5,795	61,647	42,424	19,223
2021 (対前年比)	50,503 101.0	44,725 101.2	5,778 99.7	64,512 104.6	45,000 106.1	19,512 101.5

資料：（一社）日本植物蛋白食品協会調べ

注：

1. 「国内生産量」は国内自社工場で生産した総量でOEMや受託生産も含む。海外自社工場の生産量は含まない。
2. 「出荷量」は国内向けに出荷したものだけでなく輸出したものも含む。「自社使用量」は最終製品製造のために自社で使用する原料の量である。
3. 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

2. 植物性たん白の JAS 格付検査依頼数量

（一財）日本穀物検定協会の取りまとめによれば、2021 年の植物性たん白の JAS 格付依頼数量は 27,275 トン（うち、乾燥品が 26,837 トン、ペースト状が 438 トン）で、対前年比 96.7%であった。

表－２ 植物性たん白の格付検査依頼数量の推移

単位：トン、%

年次	計	乾燥品			ペースト状	冷凍品
		計	粉末状	粒状		
2017年	30,095	28,654	7,324	21,331	1,318	123
2018	29,173	27,977	5,805	22,172	1,039	157
2019	28,937	28,123	5,665	22,459	715	99
2020	28,193	27,730	4,879	22,851	464	0
2021 (対前年比)	27,275 96.7	26,837 96.8	4,052 83.1	22,786 99.7	438 94.4	0 —

資料：（一財）日本穀物検定協会資料

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

3. 植物性たん白の輸入量

財務省「貿易統計」によれば、2021年の植物性たん白の輸入数量は55,023トン（うち、大豆系が32,756トン、小麦系が22,268トン）で対前年比110.8%であった。

表－３ 植物性たん白の輸入量の推移

単位：トン、%

年次	計	小麦たん白	大豆たん白		
			計	たん白含有 90%未満	たん白含有 90%以上
2017年	49,873	22,127	27,746	8,435	19,312
2018	50,662	23,505	27,157	7,873	19,285
2019	47,977	19,877	28,100	7,848	20,252
2020	49,640	20,690	28,950	7,828	21,123
2021 (対前年比)	55,023 110.8	22,268 107.6	32,756 113.1	8,432 107.7	24,323 115.2

資料：財務省「貿易統計」

注：1. 各区分の現在の品目分類番号は以下のとおりである。

(1)小麦たん白：1109.00-000

(2)大豆たん白(たん白含有率90%未満)

(2)-①たん白含有率80%以上、小売容器入り：2106.10-221

(2)-②その他：2106.10-222

(3)大豆たん白(たん白含有率90%以上)：3504.00-021

2. 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

II. 各種事業等の実施状況

1. 植物性たん白の消費の増進、普及啓発に関する事業（調査、資料収集、展示会）

（1）パンフレット等の作成・更新

- ・ 植物性たん白のパンフレットの統計記載ページを更新するとともに、対外的なプレゼンテーション用資料を整備・更新した。

（2）試供品等の配布

- ・ イベント会場に加えて、食品関係事業者等からの要望に応じて、植物性たん白の試供品、パンフレット、レシピ集等の配布を行った。

（3）広報

- ・ 食品関係の業界紙誌記者を対象に、通常総会終了後の記者会見を実施するとともに、関係各紙誌に協会広告及び会長年頭所感を掲載した。また、報道・調査機関からの取材調査等にも対応した。
- ・ 運営委員会及び技術部会において内容・構成等を検討し、協会ホームページの全体的なリニューアルを行った。また、協会ホームページ上の各種統計データ・表記、協会活動情報等の更新・見直しを行うとともに、食品関係事業者、一般消費者等からの各種問合せにも対応した。

（4）外部主催の事業・催し等への参画

- ・ (株)食品化学新聞社主催の ifia JAPAN 2021（国際食品素材/添加物展・会議、5月12日～14日）に協賛・参加し、不二製油グループ本社(株)の橘伸彦氏に「Plant Based Protein として大豆たん白質のさらなる可能性」をご講演いただくとともに、植物性たん白のパンフレット、試供品及びレシピ集を配布してPRした。
- ・ FOOD STYLE Kyushu 実行委員会主催の FOOD STYLE Kyushu 2021（11月10日～11日）に参加し、九州女子大学の巴美樹氏に「大豆プロテインのちから」をご講演いただくとともに、植物性たん白のパンフレット、試供品及びレシピ集を配布してPRした。
- ・ 居酒屋 JAPAN 事務局主催の居酒屋 JAPAN2021（6月30日～7月1日）に参加、東京フードテクノロジーウィーク 2021 運営事務局主催の第2回栄養食品素材展（9月2日～3日）を後援・参加し、植物性たん白のパンフレット、試供品及びレシピ集を配布してPRした。
- ・ 日本食糧新聞社主催のファベックス 2021（惣菜デリカ・弁当・中食・外食・給食・配食業務用専門展）、(一社)日本食品機械工業会主催の FOOMA JAPAN 2021（国際食品工業展）、(公財)不二たん白質研究振興財団主催の講演会「大豆のはたらき in 京都」をはじめ各種食品関係イベント等の後援・協力・協賛・参加を行った。

2. 植物性たん白食品の規格及び技術に関する事業（調査、資料収集）

（1）JAS 等

- ・ (一社)日本農林規格協会の連絡協議会等に参加し、JAS とその運用に関する情報収集、意見交換等を行った。
- ・ (一財)日本穀物検定協会主催の JAS 品質管理責任者講習会に講師を派遣し、「植物性たん白とその品質管理について」の講義を行うとともに、同協会の JAS 公平性委員会に参加した。
- ・ 大豆ミート食品類の JAS に関して、原案作成 PT 会議、農林水産省の日本農林規格調査会等の出席・傍聴を行った。
- ・ 農林水産省のフードテック官民協議会への出席等を通じて、関連情報の収集

を行った。

(2) 技術の開発・改善

- ・ 技術部会において訪問先、日程等を検討し、技術研修会（9月27日～28日）を開催した。オルガノフードテック(株)及び新潟市農林政策課から業務・技術等についてオンラインで説明を受け、意見交換等を実施した。
- ・ 農業・食品産業技術総合研究機構の食品研究成果展示会2021、インフォーマーマーケット ジャパン(株)主催の食品開発展2021等の技術開発・改善に関するイベント等に参加した。

3. 植物性たん白食品の内外の情報収集及び調査研究に関する事業（調査、資料収集）

(1) 情報収集

- ・ 植物性たん白及び関連食品の原料、加工、利用等に関する内外の情報収集を行うとともに、植物性たん白の生産出荷統計、JAS格付検査依頼実績及び輸入実績のデータを整備した。
- ・ 農林水産省をはじめ、関係行政機関による食品に関係する各種法令・制度・事業、国際関係についての関連情報の収集を行った。
- ・ (株)新社会システム総合研究所のセミナー等を通じて、研究機関・学会における関連情報の収集を行った。
- ・ (一財)食品産業センターの企業・団体連絡協議会等に参加し、食品産業政策に関する農林水産省からの説明、食品産業をめぐる諸問題に関する同センターからの説明等を通じて、関連情報の収集を行った。
また、(一社)日本農林規格協会のセミナー出席等を通じて、関連情報の収集を行った。
- ・ アメリカ大豆輸出協会主催の2021アメリカ大豆バイヤーズ・アウトルック会議、Soy Canada主催のバーチャルセミナー等に参加し、国際的な植物性たん白の需要・原料事情に関する情報収集を行った。
- ・ 植物性たん白市場等について、様々な分野での情報交換を行った。

(2) 調査研究

- ・ FOOD STYLE Kyushu 実行委員会主催のFOOD STYLE Kyushu 2021（11月10日～11日）において、九州女子大学の巴美樹氏に研究委託「高齢者の健康寿命延伸に対する植物性たん白摂取による栄養面での効果」に関連したご講演をいただいた。

(3) 現地研究会

- ・ 運営委員会において訪問先・日程等を検討し、現地研究会（10月14日～16日）を開催した。北海道内を訪問し、柳月スイートピア・ガーデン、帯広市川西農業協同組合及び和弘食品(株)において事業・業務等について説明を受け、施設見学、意見交換等を実施した。

4. セミナーの開催（研修、セミナー）

- ・ 技術部会においてテーマ、日程等を検討し、技術セミナー（2月21日）を開催した。(株)NTTデータの三竹瑞穂氏に「食に押し寄せるデジタル化の波」、オイシックス・ラ・大地(株)/Future Food Fund(株)の村田靖雄氏に「アメリカのフードテック市場との比較から見た日本のフードテック市場の課題と戦略」についてご講演いただき、ライブ配信、意見交換等を実施した。

5. その他

(1) 協会運営

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大への対応にも留意しつつ、関係法令、定款等に則り、各種内部会議等を円滑かつ的確に開催・実施した。

(2) その他

- ・ 会員（賛助会員を含む）に対して、有用な情報の提供を行った。